Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Clinical Factors Associated with New-Onset Glucose Intolerance among Patients with Schizophrenia during Clozapine Treatment: All-Case Surveillance in Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石橋, 美貴子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033271

学 位 論 文 の 要 旨

Clinical Factors Associated with New-Onset Glucose Intolerance among Patients with Schizophrenia during Clozapine Treatment: All-Case Surveillance in Japan
クロザピン治療中の統合失調症患者における新規耐糖能異常に関連する因子:日本における全例調査の結果

東京女子医科大学大学院
内科系専攻精神医学分野
（指導：西村勝治教授）
石橋　美貴子

Tohoku J Exp Med 2020 Oct;252(2):177-183（2020 年 10 月 13 日発行）に掲載

【要　旨】

抗精神病薬のクロザピン(CLZ) は、治療抵抗性統合失調症に対し優れた効果を有する一方で、耐糖能異常を生じるため、全患者の血糖値、ヘモグロビン A1c 値がモニタリングシステムに登録されている。本研究では、システムに登録されたデータを解析し、CLZ 投与中の新規耐糖能異常の発生頻度とリスク因子および HbA1c 値の推移を調査した。2009 年 7 月～2016 年 1 月にモニタリングシステムに登録された 3,760 例のデータを解析した。空腹時血糖値≧126mg/dL、随時血糖値≧200mg/dL、HbA1c 値≧6.5%（NGSP）のいずれかを満たすものを耐糖能異常と定義し、開始時耐糖能異常群、新規耐糖能異常発生群、耐糖能異常が発生しなかった群の三群に分け、新規耐糖能異常発生のリスク因子を検討し、HbA1c 値の推移を追跡した。調査対象 3,746 例のうち、上記三群はそれぞれ 92 例（2.5%）、428 例（11.4%）、3226 例(86.1%) であった。新規耐糖能異常の発生は高齢、治療開始時の HbA1c 高値、治療期間の長さと有意に関連した。HbA1c 値は、開始時耐糖能異常群では横ばいもしくは改善傾向を示し、他群では HbA1c 値は漸増した。先行研究と同様に CLZ 使用は耐糖能異常発生のリスク因子となることが確認されたが、本研究では、HbA1c 値が高値である患者でも適切なモニタリングと介入を行うことで安全に CLZ を使用できる可能性も示唆された。